

挑戦5 離島の振興

将来の北薩地域は

甑島や獅子島などの離島地域が、架橋や道路等の交通基盤が整備され、離島の特性を生かした魅力ある観光産業の振興が図られ、交流人口も増加するとともに豊富にある農林水産物の流通が活性化されています。

1 「宝のしま」の恵みを生かした産業おこし

将来のイメージ

〈甑島〉

- 耕作放棄地等を活用した自給粗飼料の確保により低コストの肉用牛生産体制が確立されているほか、島内で採れた新鮮な野菜等が各家庭や宿泊施設で利用されています。
- 豊富にある広葉樹と併せて、スギ・ヒノキもパルプ材や合板用材等として島外に出荷されています。
- 椿油生産や特色ある景観としてツバキ林が整備されるとともに、その他サカキ・シギミなど特色ある特用林産物生産林も整備され、生産出荷されています。
- 漁業生産拠点の整備が推進され、潤いと活気に満ちた水産業の振興が図られています。
- 地理的・自然的特性を活かしながら、一層の販路拡大が図られるとともに、水産業を支える担い手が確保され、持続的・安定的な生産体制が構築されています。

〈獅子島, その他の離島〉

- 温暖な気候を生かした「夏みかん」「不知火」などの果樹栽培により、高品質で収益性の高い果樹経営が確立しています。
- 豊富にあるスギ・ヒノキが合板用材等として県外に出荷されています。
- 養殖業が盛んな獅子島では、国内外での一層の販路拡大が図られるとともに、養殖漁場の持続的な利用と養殖業を支える担い手が確保され、安定的な生産体制が構築されています。
- チリメンを対象にしたバッチ網漁業を主体に漁船漁業が営まれている桂島では、一層の販路拡大が図られるとともに、水産業を支える担い手が確保され、持続的・安定的な生産体制が構築されています。

現状と課題

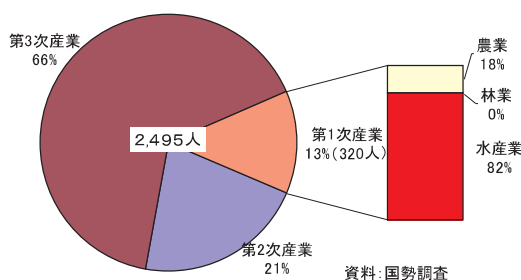
〈甑島〉

- 肉用牛繁殖経営については放牧形態が主ですが、配合飼料価格が高騰する中、繁殖雌牛の飼養頭数の拡大に伴い、耕作放棄地等を活用した島内での粗飼料確保が必要です。
- 野菜等については、主に自家用や農産物直売所向けの生産であるため、島外向けの生産に当たっては、品目選定、栽培技術確立、販売方法等の解決が必要です。
- 森林の多くは広葉樹ですが、スギ・ヒノキの針葉樹もまとまった面積で賦存しており、その利活用が不十分です。
- 特殊樹林としてツバキ林が170ha程度あり椿油が生産されていますが、生産量は以前と比較して少ない状況にあります。
- 当地域の自然的・社会的・経済的条件を考慮して、今後、特用林産の振興は重要と思われます。
- 東シナ海の恵まれた海洋資源による水産業が盛んです。
- 水産資源の減少、魚価の低迷、輸送コストの不利、就業者の減少・高齢化など厳しい環境の中、持続可能な強い漁業経営を目指し、安定的な生産体制の確立と販路拡大を図る必要があります。

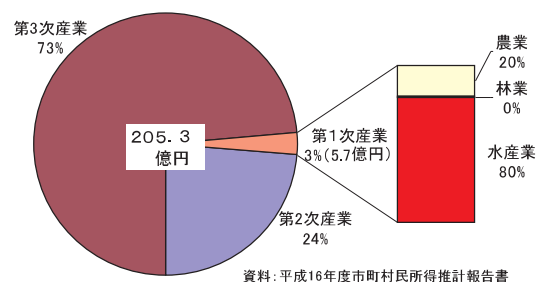
〈獅子島、その他の離島〉

- 獅子島は耕地が少ないため、傾斜地を利用した夏みかんを中心とする果樹の栽培が盛んですが、農家の経営規模は零細です。
- かんがい排水施設など生産基盤整備の遅れなどにより、農業後継者の不足、農地の耕作放棄が進んでいます。
- 獅子島では、魚類養殖業においては、飼料等コストの増大、魚価の低迷など厳しい環境の中、持続可能な強い漁業経営を目指し、養殖漁場の持続的な利用と安定的な生産や販路拡大を図る必要があります。また、藻類養殖業についても、安定的な生産と新養殖種の導入を図る必要があります。
- 桂島では、厳しい漁業環境の中、持続可能な強い漁業経営を目指し、安定的な生産体制の確立と販路拡大を図る必要があります。

甑島における産業別就業者数の割合(平成17年)



甑島における産業別総生産の割合(平成16年度)



取組の方向性

(1) 農業の振興

〈甌島〉

- 肉用牛は、各種事業等による繁殖基盤の維持・拡大及び優良種雄牛による改良の推進・生産性の向上を図るとともに、放牧形態を主体とした低コスト生産を推進するほか、耕作放棄地等の再整備や水田裏作等への飼料作物の作付を推進し、自給粗飼料の確保に努めます。
- 高齢者等による直売所・宿泊施設向け野菜等の生産を推進します。

〈獅子島、その他の離島〉

- 温暖な気候を生かして夏みかん等の果樹農業を推進します。
- 不知火など優良品種への転換などにより、収益性の高い果樹経営の確立を図ります。
- 集出荷施設等の流通基盤の整備を推進するとともに、傾斜地等の立地条件に沿った生産基盤の整備を図ります。



甌島における肉用牛放牧



獅子島の紅甘夏

(2) 林業の振興

- スギ・ヒノキの針葉樹材については、合板用材等として島外利用が可能となるよう森林整備を促進します。
- 広葉樹材についても、パルプ用材等の利用ができる林分の整備を行います。^{※57}
- 甌島の特色ある景観となるように配慮した、椿油の生産拡大のためのツバキ林を整備します。
- 有望と思われる特用林産物の検討、補助事業の導入等を支援します。

(3) 水産業の振興

〈甌島〉

- 生産基盤の整備として、浮魚礁等による漁場づくりや藻場造成などによる漁場環境の保全を推進します。

- 水産物の流通・加工改善として、一元集出荷・保管調整による集出荷体制の改善や低価格・未利用・多獲魚の加工促進と販路拡大を推進します。
- マグロ養殖の拠点として、マグロ養殖支援体制や地元種苗供給体制の整備を推進します。
- キビナゴ漁業の振興のため、集出荷体制の整備や消費拡大と販路拡大を推進します。
- 若い漁業者の確保・育成のため、漁協青年部の交流促進と漁業士の育成、経営改善グループの掘り起こしを推進します。



甌島のキビナゴ
(県内でも有数な産地)

〈獅子島〉

- 魚類養殖業では、養殖コスト削減対策（飼料高騰対策）や価格安定対策、消費拡大、輸出の促進、赤潮対策を推進します。
- 藻類養殖業では、ヒトエグサ養殖業の振興や新養殖種の導入（ヒジキ、トサカノリなど）を推進します。
- 若い漁業者の確保・育成のため、漁協青年部の交流促進と漁業士の育成、経営改善グループの掘り起こしを推進します。

〈桂島〉

- 生産基盤の整備として、魚礁等による漁場づくりや藻場などの環境整備、森による海の環境保全を図るとともに、放流事業など栽培漁業を推進します。
- 担い手対策として、若い漁業者の確保・育成を推進します。

〈共通〉

- 離島漁業を支援する制度等を活用し、漁業集落の活動を促進します。
- 漁港・漁村の整備と水産業・漁村の多面的機能の発揮を推進します。

55 シキミ：本州・四国・九州に自生し、樹高は5~10mの常緑樹である。全国的に仏事に利用され、春と秋の彼岸、盆、それに正月が最大の需要期となっている。

56 不知火：不知火（しらぬい）は、「清見」にポンカンを交配して作られた果樹の品種で、昭和62年頃から出水

地域に導入されている。

なお、デコポンは熊本果実連の登録商標で、糖度13度以上、クエン酸1%以下の品質基準を満たす不知火がデコポンとして販売されている。

57 林分の整備：樹種構成や林齢配置等が似通った林木の集団整備。

2 蘭牟田瀬戸架橋と甑島を縦貫する道路の整備推進

将来のイメージ

- 蘭牟田瀬戸架橋や甑島を縦貫する道路が整備され、甑島3島（上甑島、中甑島、下甑島）がひとつにつながり、島内施設の相互利用や災害時の島間での応援体制が整備されるなど安心して暮らせる環境が充実しています。
- 甑島の豊富な水産資源や観光資源を生かした地域振興が図られています。

現状と課題

- 各島ごとに医療施設の建設・運営や災害等への対応をしています。
- 豊かな自然など観光資源が豊富にありますが、蘭牟田瀬戸で分断されており、上甑島・中甑島、下甑島それぞれの観光にとどまっています。

取組の方向性

- 蘭牟田瀬戸架橋や甑島を縦貫する道路の整備を推進し、島内産業の活性化や、災害時の応援体制の充実を図ります。
- 甑島内の観光資源を線で結ぶ周遊観光ルートを確立します。
- 各診療所間の連絡体制の充実と効率的な診療施設の運用など、診療所の機能充実を図ります。

58 蘭牟田瀬戸架橋：一般県道鹿島上甑線は、下甑島と中甑島及び上甑島を結ぶ甑島を縦貫する道路の一翼を担う道路であるが、うち中甑島と下甑島は、蘭牟田瀬戸(海)により隔てられているため、平成18年度から蘭牟田瀬戸架橋建設事業が進められており、完成すれば、1,533mの橋となる。

3 ブルー・ツーリズムの推進

将来のイメージ

- 恵まれた自然環境を生かした、海づりツアーやクルーズ体験、スキューバダイビング等が満喫できる環境が整い、交流人口の増加により地域が活性化しています。

現状と課題

- 変化に富んだ海岸線など自然環境に恵まれています。これらを十分に生か

した観光が求められています。

- 景勝地遊覧やウミネコの餌付けなどのクルーズ体験やスキューバダイビング，ウインドサーフィン等のマリンスポーツ体験などメニューは充実していますが，島外からの観光ルートが確保されていない状況です。



ウミネコの餌付け体験

取組の方向性

- 定置網や船釣り等の体験施設の整備を促進するとともに，ブルー・ツーリズムの推進体制・受け入れ体制の整備を推進します。
- 体験マップを作成し，観光ルート企画・モニターツアーの実施等による旅行者への売り込みを支援します。

4 「宝のしま」の恵みを生かした観光振興

将来のイメージ

- 海や山の自然に恵まれ，また，豊富で新鮮な魚介類を生かした観光産業等の振興が図られています。
- 国内で唯一生息しているクロマチウム^{*59}や化石の島として認知され，交流人口の増加により，地域が活性化しています。
- ユネスコの無形文化遺産の「甑島のトシドン」^{*60}が保存・承継され^{*61}，地域文化活動の充実と郷土を愛するふるさとづくりが展開されています。

現状と課題

〈甑島〉

- 恐竜，二枚貝等の化石や国内で唯一生息しているクロマチウムが発見されています。
- 九州で唯一の海洋深層水の取水地があり，商品化されています。
- 毎年大晦日の夜に行われる「甑島のトシドン」の見学ツアーが実施されています。
- 国の天然記念物指定の「ヘゴ」の群落があります。
- 「玉石の石垣が残るたましいの島」^{*62}として「島の宝100景」に選定されています。
- 白亜紀から古第三期の地層が連続して観察できる海岸があり^{*63}，「日本の地質百選」に選定されています。



甑島のトシドン

■ ウミネコの繁殖の南限地であり、ウミネコの餌付け体験ツアーを実施しています。

〈獅子島, その他の離島〉

■ 本県最北端の獅子島は、アンモナイトや二枚貝などの化石が多く発見される「化石の島」として知られており、クビナガリュウの化石も見つかっています。

■ 阿久根大島は、「快水浴場百選^{※64}」に選定され、「日本の名松100選^{※65}」の松林があり、人に馴れたシカも生息しています。

取組の方向性

■ 恐竜や貝の化石発見に伴い、「化石の島」としてPRしていきます。

■ 魚介類等の特産品を使った開発及びコンクールを実施し、県内外へのPR活動を支援します。

■ 豊かな自然を活かしたブルー・ツーリズム等や文化遺産等による観光を推進し、観光地を結ぶ道路の整備を図るとともに、周辺地域とも連携したツアーの企画を検討します。

■ 観光ボランティアガイドの養成研修会の支援をします。



アンモナイトの化石

- 59 クロマチウム：汽水と海水の層の中間に繁殖し、酸素を嫌う光合成細菌。原始的な細菌と考えられており、現在までに、世界3箇所で見つかっていない貴重なバクテリア。
- 60 ユネスコの無形文化遺産：「ユネスコ無形文化遺産の保護に関する条約（無形文化遺産保護条約）」に基づいた「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表（代表一覧表）」に記載された無形の文化遺産で、口承による伝統及び表現、社会的習慣、儀式及び祭礼行事、伝統工芸技術など、基本的に形をもたない無形の文化財が対象となる。国内の登録数は、「甑島のトシドン」他15件である。（平成21年9月現在）
- 61 甑島のトシドン：下甑島で受け継がれている大晦日の夜の年越し行事。小さな子どものいる家に、長い鼻の鬼の面をつけ、蓑をまとった「トシドンさま」がやってきて、子どもを叱ったり、諭したりしながら、一年の反省と来年の誓いを立てさせる。最後には、良い子になる約束をとりつけて、歳餅を子どもに渡し親元に運ばせる。昭和52年に国の重要無形民俗文化財に指定され、平成21年にユネスコ無形文化遺産に登録される。
- 62 島の宝100景：国土交通省が島のくらしや人々の営みが伝わってくると同時に、次世代に引き継いでいきたい生かしていきたい景観を選定したものである。県内で12景選定され、うち1景は上甑島（平成21年3月現在）。
- 63 日本の地質百選：「日本の地質百選選定委員会」が地質学的にみた日本の貴重な自然資源を選定したものである。県関係で4箇所選定され、うち1箇所が甑島（平成21年5月現在）。
- 64 快水浴場百選：環境省が水に直接触れることのできる個性のある水辺を積極的に評価し、これらの快適な水浴場を広く普及する目的として選定（平成18年）。県内で3箇所選定され、うち2箇所は阿久根市の阿久根大島海水浴場と脇本海水浴場。
- 65 日本の名松100選：社団法人「日本の松の緑を守る会」が21世紀に引き継ぎたい名松、松林として選定（昭和58年）し、阿久根大島の松林の他、松島、天橋立、兼六園などがある。

5 しまの魅力情報の発信

将来のイメージ

- しまのサポーター・ネットワーク^{※66}や観光パンフレット等の活用により、広く情報が提供され、観光客等が増えて、活性化しています。

現状と課題

- 交通アクセスマップ等を作成し観光案内所等で自由に持ち帰れるようにするとともに、観光案内板を設置するなどの取組を進めています。
- 観光パンフレット等の作成やキャンペーンを展開しています。
- 島の魅力をしまのサポーターへ情報提供しています。

取組の方向性

- 観光地や特産物等の情報を行政・団体、民間が発行する情報誌へ掲載し、広く県内外に向けて情報発信するとともに、交通アクセスマップや観光パンフレット等を作成・配布します。
- より多くの方々に広くしまの魅力を知っていただくため、ホームページへ情報を掲載したり、しまのサポーターの募集に取り組みます。

66 しまのサポーター・ネットワーク：本県離島の出身者や離島に関心を持つ人々を「しまのサポーター」として登録し、これらサポーターに電子メールを介して離島の各種情報を総合的に発信することにより、定住・交流人口の拡大を目指すもの。